茶巳園初編 中

特
遠13
742
2

門へ遠18
浦842
巻2

明治三六年
十月十八日

梅暦餘興 春色辰巳園巻之二

江戸 狂訓亭主人著

第三回

京風「こりゃ三つの車ぢのりの乙夕顔の家の破車ぢのそばにゃ
鐵次郎様の呂ぢのりそばわらふ迄切 俄ハ切り口すまね
こりゃ ありと、いわ。ぢ成ハよ嬢ハ業程ぢるもハ嬢の浜ハ鶴ね
妹背の中柴ぢ今ハ嬢ます 赤らゝゃ区ぢ玉ハ後辺の友色
よ色」 九兵「ヲヤありやア何所どの ぢョ姐ぢ へありやア

[illegible]の部へ逗留に来ている娘ごジョそりやアそうとおめく
二階へ引越うナ仇へアトト立かりく何の婦者が耳にさ
やく拾へウ　ちようちく　さふる宋八さんのそうろうのうアー
えどのそアてさいの男ごのトト仇者が背中成一ツさく仇へいョ
ゝんと接ぶこョそりやアいごそのこのごろの拾へいよ今
にかうアう成るとまあこの宅もまぐそうのつく成るうつやア
るアまく二ちの引越ヨ仇へおうのこごジョトトいひ成ゝ二ちの
上り仇へ冊さん冊へ冊ごん仇へナセマアそんなふさうでなるの

ごト例へすり摺おく冊冊は弟ゲ自殺さく仇へ外トやア
ちのごまおまえにそうゝゝゝみちやアゝゝゝてごみる
ちう兎歩ゝゝんごアこ兎成そんなふ兎やアのゝゝひ
八子冊へそまでゝゝこの宅へまさゝゝいゝどやアねくうれ
ゲうりのこゝさう仇へうりいとやアーねぐまのまるの新
どゝゝゝるうサ冊ゝゝいうくゝみこをいごそゝてマア
何成いふてごのるのゝ仇へるアふれのうちやアちのごこ私ゲ
日ごろいふてごそまに赤まゝも泣く新ゝお出ご

ろうぶ　こんよりまで八宋八さん　ろう八　稽まえ　けまど　ゆ一ハ　ゑ乳

地ら一　ともいっかけまだ　ろう　ゆ　てごみ　くくろ　ゑ　ゑ　ゑ　れて

きくに　極て　おのて　私ごろんび　雑まえ　ゆ　ゑ　ゑ　ゑ

いまるものうまれもつかぬ初こと極へたづサ今ゴロアモウ兵の宅ざ
をのをお業ゴでまいョあチの人の亜くこうい人ハ来やーか
いョをまこうう今の日ゆざうう義皮こうを宅あくおれョ
そんなおあ主成扱さというく家人の身をうんぜてんを人
あんまり扱あるてこうこまるざうう他ヘヨヤ為ぜ知ーいこと
をお言さ人冊為ぜとらうく先達くあーまー学こうあへの
身のうへとどうのふことけうてもあまだ一生女房ス持ふ
うんぞとらふてとハうー人義理と知りあざうつのーこと

目にまーく実成をーてくもろうう自ゆふ為うう米八ダ
外ふ浮為ふことでもあうくうまを節化と見ーてんう
赤あ主の身成うんざくまバ為ーくそうーこうのもうう
ぞうやあへハそうーてもさ主てハすまあ浮世のうへ作ふ
為ふとのふうちけもちざあうくーて今自ら四三日切まく
ちまうふとのふてとぶーぶひよ知ますニ人ざ中と神くさんも
お知りあるめーと宅でまへ人で見ハ出ーて浮く房る頃ある
よトゆくちざうく仇ちハうのさへのうざちやう上さーこと

[illegible]
[illegible]たる女の情[illegible]
[illegible]仇[illegible]私がいろ[illegible]
[illegible]
[illegible]

すて
捨てまたと逢方にくまれ男泣
なくなく二人はさ
うれしき海鳥泣くだらり
折るとかとり
登る階段の中腹
仇さんサア養
いひあぐ
ちづ
とりこ
二人
ヨヤさうまくんぶを
抱わ
ちのぐ
方ぐ
ぐまり
モシ上
初
ちの
ぐ
ぐ
ぐ

「この」事成のんでも郷とのふ宮の出来不出来くらの
通りふうりんちるのがせめく結んで居る中ハその日成和合
ちゝそのゞ第一のことゞと思ふョ今より仙の角を第ゞすごと
事をいろ〳〵ハそんゞスヨ。ヨヤ。ひろく御テをゝ仇さん
チット浦ぬかそん事ふふりゞ源ゞんでふさので居ることそ
ちゞまゝ〳〵ョい〳〵ころの害の横掛現ふつ〳〵のやゝ
見物をるも差ぐ完ふもることゞみのゞ法ぐく順妙の命
事をとりとれぬ〳〵ョトさまゞその身も若旦人成の

婦ふとゝゝ見もゞくゞ拝ふいもうゝ下さ
行掛吉ハ二人ゞ頼月合せ仇〳〵まゝとに掛吉ゞんハ嬉
しのョ丹〳〵りんに伝切みくゞのう。イヤそ丹八そうとちゝア
切〳〵ちやアみゝゝ〳〵ト成引とあ仇吉八仇〳〵アレサ丹
さんマア御待みそん事ふゝろ〳〵〳〵ゞ掛〳〵ぞといハまゞ
そゝ〳〵ゞあるゝ〳〵のうちゝとお出ョ丹〳〵そまゞぐゝ宅〳〵客を
待〳〵くあのゝゝョ仇〳〵うそ成ふつゝきあ仇お客ゞみゝりのち
米八ゞんゞ待ゞゞうゞョ丹〳〵うんのゞづゝ〳〵もね米八よ

うまうふのめう　仇　ダウさあ〜てさんとちあづり方　丹　コウちあ
ちふ人　ぎ〜ことよう〜ねぐ　ぎそのこ　げまめハ　けこ　ちち　方もあるゞそこてこ
我　ぐん　ぎ　ちつ〜ア　ちつ　ち　仇　ヨヤ　私ハ　ちつ　ちつ　ちづ　ちてハ　ちつい
よ　ある　ちつ　ちいひサア　ぎ　ぎの　ぎま　伺　ぎ　私ゞ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ　ぎ
み仕　ぎ
ぎ

仇「アイヤ、新八、幸遠ひサいもがらの紙を紙屋りに売よすると
りゆうそんの方ハマアわん幸みさてどやアるのさサア私の紙屋
くわつまサアりくート冊はあ紙冊のうくおまがころこい堪
こぶきまろを
ゑんーかトまふ仇「ナニあつーいのこれりやア今のこと紙売
と売ごョ冊「きうとそるくッてサ売殺でゐアどうまる仇「エ。どう
するへ新まるス冊「エあぶなへうんざーと七貫と売ゐかトいとりしも
話ガ変そ
「仇うん毋人をあくへの宅へやりさうゆつくりと拾びみよ
二ゐいこてスすこーあを仇「アイヨありがこと
おりくあざ赤がこ表

第四回

八軒ろぐくーその中にてこハ何屋ろ知ることも化粧紙屋の
其間情立ゆすまバ正に見いづまも仇ゐる五六人を呼く
の座位屋ハ六弄仙めく唄妓の音経△□○掛合のむすて
よくこゐあべくー「てんぱくうこくこれやく沙極又ぢアがぢる
るぜく「そまぢろくこうんざろ著衣の長姫抱がるるくッく
そーてうんざろぢまつくてくッて「ことるぢつよぢ恋ちッ
ろり拾ぐまりてわんとうよ長恵くーー。「ろりの

ゑ
ゑ
ゑ

ヘイリく琴ごとく　おゝ云ふの嵐ごゞ云ふものがすべつてと
ゝ　ヘいま　ヘそうろう　まこと　言ふの　糧ごゞ　ヘイ　ゝ
そうぐしのぞおてとだの　嵐ごの　物ごのとけご物やのやう
ごのう　ヘ　何サ　犯後の　繁年　ごすのウ　亢人　そのそゞごゞ
あんとを　勿　葬ねのの　我ゑくく　ことらくく　言我りんで居る
のの　我あの　ことんごりんごゞ　ヘ　ちのゝ　ド　よりも　余程　愚智ッ
ぐ　ゝ　ゝの　老婆　やごうも　やうきしのぜゑくゑ　ゝ　又
ゝ　ゝに　ゝんねゝ　ゝ　紗　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝゞ　ゝく　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ヘ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
年　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ヘ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

あと東屋の方ハゆもくまくと赤面側ゞス　□ゑん
ぢゃうのらくとぢらり えくゐるぜえ　逆とまろうゝ左枢ごろうヨ

☆　ママちろうとさうえさうめヨえくゝゐごろうヨのう　□お
ろくゝさゐでくぢらいません　□ゐぢごとやりさも幸ゐゝの

じゃうねぐゐママゆのなにしてその　□うんぞんぜふやん丑ゐ
ぢのと差文ぶ丑ゐくと不自ゆごの　☆めの字とゆび柿きぶんの丑く

さりぢうり幸ゆくゆゝ逆の　□そうよぶろくゝさんぶの　□ぢん
きりゝ者ろろろゝぶゞテみ　□呑すぶく逆ゝゆテゐうう逆もき仲

ゐぶぶ呑ぢうりでもゐゝめくよちゝ　泊ゞ逆者ゝよゐつと
のハ米ハぶんぶのう　□そうよゐうゝアゝの川ゐど天ゐむ幸

ぶゞどう　ゝて叶ハ逆ハ　□呑でもまくあのゝまくとちゐつと
ろハねくぜのう　□実ふにわのゝろんぞゞ幸のとちゐつと

らふのぶろうヨ　□そうやアそうと仇の字のヨけハどふゝと
ろう　□そうヨゝく米の字ぶゞまつゝ　めろの　□ナニ仕るふ

他の二階ぶくゆゝまゝくらつゝとそうぶよ　☆うんゞ米ハぶん
ぶゐゝふ幸でもゆハゝろうヨ　□それぶけまどぶろも

見だろうりやアふせぎやうがねのう　□ペ仇の宝ざろく
もまさ大畧ろ〜ちやう和ぜんぞうりいろ〜達入とう撲
うしとろやうさ極へどやアあるべよ　ペそうのとんざりの
とやうかそのかいうアキウ引と一盃やう〜てのトらの
時しも未時の撞ボウン引〜〜そも寄金〜
山樵猟さも幸さんしかやうあるとその身なるう
又るとき八幸者山苦の會所まく有り〜や寸
うう〜にあうぞ逢さ雑さの物いりひ義理のちぐ〜こ

永の永蔵く裏の初目の出立う〜蝶飛頃の結うよ
く岩絡八文庫に落岩ぞ拾小袖小夏衣裳ゆせ
あきやぐく先駆うぐる中に一人をおうう主員ぬ幸性
う疾とあり糸備金とあり糸結ぶ幸ゆる切まる
岩女うとるる夫とやうく〜よ雑主義東八身の法あり金
のある本もあるやうに逢ひくコろ〜ね欲の石ども〜
幸独道へ出るにて〜主ねうんぎとある愛〜元世小絶
姫山逢分限よるてる兵彼弧好まぞ主うどく〜を横

こゝく悪と情欲こゝろにうけよりてぬ形ひかゝ紙尺く
不実の人とあること形ゝ色ようやくく不人情ゝく
一旦栄ゆる者ありとも永き月日のその中に思ひの
外に零落しく後悔をるてとうとがひ多しけて貧人
ゝとゞ色貴ふとゝとゆこゝろく怪ひし彼己島の日ゞ
姿ふりもくゝ乱紙するに等しく日毎にうも猛者
ゝおろの流のおろら形る乱紙てゝしくうときをつしく
不貞の女とあるまゝとゆひくさも親兄弟のたゆよ

苦こゝ不義不実とゆふまる財宝ものゝ多くとゞ
がくとも線は遠の弟ゝふつゞも紙ゝ長ゝとも乱ゝ拝の
ゝ小袖操の糸の縄くくゝ扉身も廣しと思ひ定
ゆく正しくゝ行ひ親はゞ歌ゆゝ長ゝとゝ
遠ひく居ゝ和方へ思紙いまゝ多ゝ悪ゝ思ゝ
ゝく実見ゆゝも作者が癖狂剃髪ゞ老婆ひうんと
ゝ儀亢合点ゝく
其名呼ゝ与志町にゝ居ゝ仮住居内にゝゆる

三條縮ハ絶く久しき流行の貴賤こゝ宮雲節

横川も世きこる洞チン今こゝさんのその中うあ憂

ハ〻ハこゝまぐさまそぞのか。むらを一社の付合に思ふ

流くおりひそも。いろ〻癌にかあいゞ痕。こゝ

久月こゝのゞ癌ひ意しの報ゞ業より。按摩さんより。

奏こゝり。幸金ゞ紙ゞりや。こゝるゝ。お袋さんの必機

嬢ゞそこゝるひて月こゝ月あもの月後奏で縁出は吉ゞ留

今月月こゝまぐこゝ置きせうあ〻さ又逢稿の

昆沙門さま〻こゝ丁度今時分来ま度ゞそこの

附分お宅ざとの〻絶く宮この時代ハ〻こんに明日ハ寅の日ゞの浅

巣〻行やこゝくゞみけまどあくのあるまぐきとふョ〻ヲヤ

そこうこ〻嬢しのも〻こ〻うまこしのわどのこもあるめくゞ捨う

きこゝさ宮宝ぶ紙ゞこゝくこゝまるゞうまこ〻さふゞまに

でもお〻こゝる幸ゞゞうも結元の能人きもけ極こゝハ

こまるおゞ〻ハゞうも感ゞゞョ〻ヤどうせう一書私

ゞ〻えゞゞるこゝうお幸のゞくゞりませんハ〻ナ〻

どうしてくちもとこの茅ふるまぐちあくのもうみ節用
みぶ兵三門さとろくトいよりうゝげいしや二三人
おのてゝこゝ高紙うける。ハ米さんり米八さん米ヨやく
どうしてくれもこエ ハさの字に米ぶ今ッゝチョイと
のぞく法のりぶちあくも行ふく米ヨやそうろうもぐふト赤
代ハにいとゑごひしてくを出る

校暦餘興 春色辰巳園巻之二終